



ごみのお話①

《表紙の取り扱い》

題名「たいせつに、たいせつに」を読んだあと、表紙をぬいて、横にはずしてから、脚本を読み始めてください。

演出ノート

未来ちゃんみくは、仲良しのゴローちゃんなかよとお留守番るすばん。

部屋へやいっぱいにおもちやを出して、遊あそんでいます。

お腹なかがすいてきました。

未来ちゃん

「おやつにしよう。」

お菓子かしをポリポリ。

ジュースをゴツケン。

お菓子の袋かしのふくろやジュースのペットボトルを

散ちらかしたまま遊あそんでいます。

—少し間すこしまをあける—

ゴローちゃん

「エーン、たすけてえ。ワン！」

【ぬく】



ごみのお話②

未来ちゃんは、びっくり。

未来ちゃん

「どうしたの？」

ゴローちゃん

「お菓子の袋が

カシヤカシヤ面白い音がするから、遊んでいたら、

顔がすっぽり入っちゃって、抜けなくなったんだよう。ワン！」

未来ちゃんは、袋を外してあげました。

ゴローちゃん

「ああ、こわかった。ありがとう。」

どこにでもごみを捨てる人がいるから、

ぼくみたいに困っている動物はたくさんいるんだよ。」

未来ちゃん

「そうなんだ。」

どこにでもごみを捨てちゃいけないんだね。」

ゴローちゃん

「あとね、

未来ちゃんは、ペットボトルはごみだっと思うかもしれないけど、

いろんなものに変身できるんだよ。

おもちやだっで作れるよ！」

未来ちゃん

「知ってるよ。この前、幼稚園で作ったんだから。」

ようし、ゴローちゃんに見せてあげるね！」

【ぬく】

演出ノート

納得したように読む



ごみのお話③

—絵を指さしながら—

未来ちゃん

「ジャーン！」

新聞紙で作ったかぶと。紙コップで作ったそうがんきょう。」

ゴローちゃん

「かつこいいい！」

未来ちゃん

「お次は、お菓子の箱でロボット。どう？」

お船は何で作ろうかな。

牛乳パック

にしようかな。ペットボトルにしようかな。」

ゴローちゃん

「すごい、すごい。未来ちゃん、上手だね。」

未来ちゃんは、新聞紙や牛乳パック、ペットボトルなどを

おもちゃに変身させました。

—少し間をあける—

ゴローちゃん

「たのしいおもちゃが、こんなにいっぱいできたね。」

未来ちゃん

「ああ、おもしろかった。」

ゴローちゃん

「じゃあ、未来ちゃん、いっしょにかたづけよう。」

【線までぬく】

ゴローちゃん

「そうだ。未来ちゃん、知ってる？」

新聞紙や牛乳パック、ペットボトルは、

おもちゃに変身するだけじゃないんだ。」

未来ちゃん

「なに、なに？」

【全部ぬく】

演出ノート

得意げに読む



ごみのお話④

ゴローちゃん

「プラスチックの袋は公園のベンチに、

ぎゅうにゅう

牛乳パックはトイレトーパーに、

ペットボトルは服やランドセルにも

へんしん

変身するんだよ。」

未来ちゃん

「へえ、知らなかった。ペットボトルが服に変身するの？」

ゴローちゃん

「そうなんだよ！」

だから、きちんと分けて、ものを大切にしようね。」

未来ちゃん

「たいせつに、たいせつに。」

— おしまい —

演出ノート